

牧野植物園

(環境共生課)

○概要

牧野植物園は、昭和33年に、高知県が生んだ植物学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰する施設として高知市五台山に開園し、平成11年11月には「牧野富太郎記念館」が開館、園地面積を拡張しリニューアルオープンし、さらに、平成22年4月には南園温室がオープンしました。

植物園地は17.8ha(うち6haを供用)、主要施設として、牧野富太郎記念館(本館、展示館)、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなどがあります。



牧野植物園の南園にある新温室

○運営主体

公益財団法人高知県牧野記念財団を指定管理者に指定(H23.4.1~H28.3.31)

○平成25年度の主な植物園活動実績等

牧野植物園では、植物に親しみながら、植物の大切さや自然環境の保護保全について改めて考えていただく機会を提供するため、各種教室や企画関連イベント、展示活動等を行っています。

1 植物教室

植物に関心や親しみを持ってもらうため、園内の植栽を中心に季節のテーマに沿って実際の植物を観察する教室です。

■「草花を描く」「ふれあい植物観察会」など

2 子ども自然体験教室

いろいろな体験を通して子どもたちに五感で自然を感じてもらうことを目指して実施しています。

■「自分でお茶を作って飲もう」「食べられる野草をさがそう」「親子で作る竹細工」など

3 体験教室

植物を素材にした「ものづくり」を通じて、暮らしの中で植物を身近に感じ、生活を豊かにする植物の魅力を感じてもらう教室です。

■「アロマテラピー教室」「押花教室」など

4 企画展関連イベントなど

植物に興味・関心を抱き、植物園に足を運んでもらうきっかけづくりとして、植物や牧野富太郎博士に関連した催しや、生きた植物の展示や教室、イベント等を開催しています。

■「ハワイアンフラワーフェスティバル」「世界の三大穀物」「夜の植物園」「菊花展」「五台山花絵巻」など



・「ハワイアンフラワーフェスティバル」

カトレア、ハイビスカスなどハワイで育まれた花を多数展示しハワイの雰囲気を感じられるようにしました。

5 その他

来園者への展示解説・植物解説、園外への講師派遣、学校向け学習プログラムの提供などを行っています。

※平成25年度植物園入園者数:146,019人

○研究型植物園として

薬用や花卉、食用等の分野で人間の生活に利用される植物(有用植物)の研究、栽培、利用技術の開発を図り、県の産業振興にも役立てようとするものです。

中山間地域で栽培可能とされる漢方薬原料とな

るホソバオケラ等の栽培技術等に関して、公設試験研究機関等と連携して研究活動を行うことで、さらなる成果が得られるよう、引き続き取り組んでいきます。

※牧野植物園ホームページ
<http://www.makino.or.jp/>

地球環境や風力発電の 出前授業 (公営企業局電気工水課)

○現状と課題

公営企業局は県内3カ所で、環境にやさしい風力発電所を運営しています。そこで風力発電を通じて地球環境に興味をもってもらうことを目的に職員が学校に出向き「風力エネルギー出前授業」を実施しています。

また、平成25年度まで小中学校・特別支援学校の先生を対象とした研修会「実験でわかる！風力発電～意外と知らない電気と風のひみつ～」を、高知県立高知東工業高等学校の先生と生徒の協力をいただき、高知県教育センターとの共催講座として開催してきました。平成16年度から10年間実施し、一定の成果も出てきたことから、平成26年度から研修会は休止することとしました。

なお、出前授業においては、近年は参加する学校が固定化しつつあり、参加者が伸び悩んでいることが課題ではありますが、少しずつ取り組みは理解されていると考えています。

○施策の展開 (実施した取組)

出前授業では、風力発電や環境問題についての基礎的な講義、ペットボトルから作製した羽根車を用いた発電実験、職員が考案した装置を使った風の力を知る実験などを行っています。

なお、幅広く授業を受けてもらえるように、対象学年に応じた講義内容となるように工夫しています。

研修会では、職員が編集した「風力エネルギーブックレット」を使った環境問題や風のエネルギー、風力発電の原理についての説明、出前授業でも行っているペットボトルを使った風車の羽根の製作、発電実験などを行いました。研修の実施に当たっては、参加された先生方にそれぞれの学校での授業に活かしてもらうことで、より多くの児童・生徒が、地球環境について興味を持ち、考えるきっかけになるように取り組みました。上段で

記載したとおり研修会は休止することとなりましたが、要望等の状況によっては再開することを検討したいと考えています。

■平成25年度実績

- ・出前授業（イベント時の参加は除く）
計5回 153名
- ・研修会（教育センター共催講座）
1回 8名



出前授業の様子



研修会の様子

(今後の取組)

出前授業については、より多くの学校の児童や生徒に参加していただけるよう、ホームページでの案内をよりわかりやすく工夫するなどの取り組みを進めます。

四万十川で環境について考える 若武者プロジェクト

(高等学校課・四万十高校生)

○概要

四万十高校は、平成11年から普通科に「自然環境コース」を設置し、四万十川の恵まれた自然環境を生かした環境教育に関する取組を積極的に行っています。

「屋久島研修」、「環境教育出前授業（小中学校対象）」、昔の生活体験をする「黒尊研修」など幅広く環境学習の活動を行ってきました。

その活動は県内外から注目され、地元の森林組合や大手文具メーカーとともに「結の森」を調査する「結の森妖精チーム」の事業などの実施によりその可能性は大きく広がっています。

また、総合的な学習の時間では「四万十概論」と銘打って、四万十川流域の文化や自然を中心に郷土の理解を深める学習を行っています。

平成18年度からは今までの取組に加え、高校生が独自に「四万十川の環境を考える若武者プロジェクト」を企画し、環境学習を通して得た知識や経験、気づきを地域や全国に発信しています。

○施策の展開

(実施した取組)

「四万十川の環境を考える若武者プロジェクト」
-四万十の素晴らしい魅力よ！君たちに届け-

(1) 目的

森川海のつながりや、自然と地域のつながりを知り、四万十川周辺の環境を考え行動する人材（若武者）となる。

(2) 主催

WZF 若武者絶対増やす実行委員会
実行委員長：四万十高等学校 2年生徒
教員代表：四万十高等学校 環境教育部

(3) 開催日

平成25年8月20日（火）～22日（木）

(4) 開催場所

四万十町大正・三島

(5) 参加者

尾瀬高校生徒3名 教員1名
体験入学中学生2名 保護者3名 一般3名
四万十高校生9名 教員3名

合計24名

(6) 実施内容

- ① 四万十川水生昆虫採集・水質調査
- ② 準絶滅危惧種「シショウゲ」調査
- ③ 四万十川ラフティング体験
- ④ 市の又風景林フィールドワーク
- ⑤ 意見共有・アンケート



川学習の様子



ラフティングの様子



市の又風景林フィールドワークの様子